



佐高 信
経済評論家

北朝鮮の脅威といったことが喧伝される。「悪の枢軸」などと決めつけてそれを煽るアメリカが拍車をかけている。しかし、北朝鮮から見たら、恐いのはむしろ、アメリカとその尻馬に乗る日本だろう。

『ダカーポ』の三月六日号でジャーナリストの魚住昭が興味深い発言を引いている。

いわゆる不審船事件は、最初、一九九九年春に起こった。時あたかも、ガイドライン関連法案の国会審議中である。

題から目を閉じてしまつことになりました」

率直な告白だろう。魚住の指摘する如く、「偶然にしてはあまりにタイミングが良すぎる」のである。

東京国際大教授の前田哲男によれば、北朝鮮の船が近海に出没しているのは、何十年も前から常識だった。見つけるたびに日本側は武力を使わずに追い払っていたのである。

「それが突然、九九年になって計画射撃し、爆弾まで投下したのだから不自然ですね。

なぜかタイミングよく騒がれる不審船

小泉純一郎こそ平和主義への抵抗勢力

房長官在任中に北朝鮮の不審船事件に遭遇し、小淵総理の許可を得て史上初の海上警備行動を海上自衛隊に出した張本人です。けれどもあの時、北朝鮮からの麻薬を運ぶ船は常に日本に来ていたと思います。後から考えますと、なぜあの時に発覚したのか、未だに不思議でなりません。あの時は防衛庁の調達業務の不祥事が次から次へと出てきて、ガイドライン法案が国会審議を混乱に陥れている時期でした。日本人はあの不審船で一挙にそういう問

る。世論操作のために誰かが仕組んだ疑いは十分あると思います」(前田)

小泉純一郎はこうしたことを考えて行動する人間ではない。とにかくイケイケ型で、有事法制の成立にも「執心である。

やるべきことをやらす、やらなくてもいいことに血道を上げる。野中は「抵抗勢力」の代表視されているが、日本国憲法の平和主義にとつては、小泉こそがそれを崩そうとする抵抗勢力である。

とにかく管理強化が好きなタカ派の小泉は住民基本台帳とセットになった個人情報保護法も成立させようとしている。個人情報保護法とは名ばかりで、中身は権力者保護のスキヤンダル暴露封殺法である。

二月二三日、ジャーナリストの桜井よしこ(国民共通番号制に反対する会「代表」)に誘われて、東京は数寄屋橋で、住民基本台帳ネットワークシステムの廃止を訴える該当演説とピラマキをしたが、俳優の三田佳子や辰巳琢郎も参加したこともあつて、翌日付の『朝日新聞』はこう書いた。

政府は「全国どこでも住民票の写しが取れるようになる」など利点を強調しているが、「個人情報の国家管理につながり、流出・流用の懸念もある」との反対論も根強い。

評論家の佐高信さんは「桜井よしこさんと私が共通の立場で反対するということはほとんどないが、とんでもない制度なんです」と語り、聴衆を笑わせた

保守派の桜井が先頭に立ったこともあつて、『週刊新潮』までが、この日の行動を取り上げた。しかし、有事法制反対では、桜井と私は共闘できない。

盗聴法反対運動などでも、いわゆる保守の人間が加わっていないと、メディアはあまり報じなかった。メディアにとつては、自らの生殺与奪の権を政府に売り渡すことであるのに、個人情報保護法反対のキャンペーンを張れないのである。メディアがどつぱりと保守になつたからだろうか。